

- 1 教育事業名 「しまラブ」 ～We love とかしき～
- 2 ね ら い 法人ボランティアが他府県の法人ボランティアとの交流により培った知識・技能・経験を活かし、自然体験活動における実践的な取り組みを通して、ボランティアとしての意識の向上を図る。また、参加者に対し、集団宿泊体験を通して、仲間との交流、自然体験活動と法人ボランティアの魅力を伝える。
- 3 期 日 平成29年 2月13日（火）～15日（木） 2泊3日
- 4 場 所 国立沖縄青少年交流の家
- 5 募集定員 24名
- 6 参加人数 3名
- 7 参加者内訳 大学生3名（男性1名、女性2名）（県内3名）
- 8 実施プログラム

2月13日	9:00	10:00	11:30	12:00	13:00	16:00	17:00	17:30	19:30	21:00	
	集合 受付	出港	オープ ニング	昼食	海洋研修 カヌー・カヤック スーパーフロート・水泳		本館 移動	タベの つどい	夕食	レクリエー ション	入浴 就寝
2月14日	6:00	7:00	9:00	10:30	12:00	13:00	17:00	18:00	21:00		
	起床	朝の つどい	朝食 片付け	施設 見学	移動 テント設 営	昼食	島探検		休憩	BBQ	入浴 就寝
2月15日	6:00	8:00	9:00	ゲーム&野外炊飯			15:00	16:00	17:00	17:35	
	起床	テント 底上げ 朝食	テント 片付け				エンディ ング	移動	出港	解散	

9 事業の様子



オープニング



海洋研修オリエンテーション



海洋研修



入所オリエンテーション



レクリエーション



施設見学



島探検



交流BBQ



ゲーム&野外炊飯



エンディング

10 エピソード

【参加者の声】

- ・ぜひ5月のボランティア養成事業に参加したいと思った。
- ・ボランティアや参加者、職員と楽しく交流できた。
- ・3日間楽しく過ごすことができた。
- ・自分も参加者でなく運営に携わってみたいと思った。

【ボランティアの声】

- ・参加者の楽しそうな顔を見ることができた。
- ・改善点をたくさん見つけることができたので次に活かしたい。
- ・渡嘉敷島を満喫できる新しいプログラムで楽しむことができた。
- ・これまでのボランティアの経験や技術を伝えることができた。
- ・運営をする際の声かけやサポートの大切さと大変さを感じた。

11 担当者所見

(1) 成果

本事業は、ボランティアが日頃感じている課題を解決するために、これまでに本所で行ってきたプログラムにとらわれず、新しくプログラムを考えながら実施した。運営ボランティアが試行錯誤し、日程の設定やプログラムの検討、事前の準備、広報活動などをゼロからスタートさせた。広報面や準備面での反省は多いが、最後までやり遂げる力を養い、これまでの自主企画事業以上に達成感を得ることができた様子である。

参加者から「5月のボランティア養成事業に参加したい」「ぜひ自分も運営をしてみたい」と感想があったことから、少しずつではあるが島ボラの輪が広がった様に感じる。

今回学んだ、やりたいことを達成するために知恵を絞り、準備・実践・反省という流れを今後継続してボランティア活動の中で活かすと共に、日常生活の中でも課題を見つけ、最後までやり遂げる力を発揮してほしい。

(2) 課題

- ・ボランティアがイメージをしやすいよう、より具体的に事前説明を行うべきである。
- ・職員全体でボランティア育成の視点からフォローしていく必要がある。
- ・特定の大学のみではなく、そのほかの近隣大学からも参加者が来るための方法の及び多くの参加者を得るための方法の検討が必要である。

